



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年2月10日

上場会社名 コムシード株式会社

上場取引所 名

コード番号 3739 URL <http://www.commseed.net/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 羽成 正己

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営管理部長

(氏名) 小倉 誠

TEL 03-5289-3114

四半期報告書提出予定日 平成26年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	637	27.1	△64	—	△68	—	△70	—
25年3月期第3四半期	501	△31.7	△269	—	△265	—	△321	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	△16.50	—
25年3月期第3四半期	△86.07	—

当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。1株当たりの四半期純利益につきましては、当該分割が前事業年度の期首に行われたと仮定し算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	349	227	65.3
25年3月期	313	173	55.2

(参考)自己資本 26年3月期第3四半期 227百万円 25年3月期 173百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	800	19.1	15	—	10	—	10	—	2.32

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成26年3月期の業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、平成25年6月28日を払込期日とする第三者割当増資及び平成25年10月1日付で普通株式1株につき普通株式100株に分割する株式分割を加味した株式数で計算しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	4,513,400 株	25年3月期	3,750,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	16,600 株	25年3月期	16,600 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	4,252,512 株	25年3月期3Q	3,733,400 株

当社は、平成25年6月28日を払込期日とする第三者割当増資により、普通株式7,634株を発行しております。また、平成25年10月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っており、当該分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6
4. 補足情報	7
(1) 設備投資の計画	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府や日銀の経済政策や金融緩和などの効果から、円安傾向が進み株式市場も上昇するなど、景気は穏やかな回復傾向にあります。しかしながら、新興国の景気減速やアメリカの財政状況に対する懸念や、来年度からの消費税増税による国内景気の不安要素から、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社を取り巻く事業環境は、ソーシャルメディアの利用者がスマートフォンやタブレット端末の普及により引き続き増加しており、今後も国内のSNSプラットフォーム向けソーシャルゲーム市場については堅調に拡大していくことが見込まれます。

このような状況のもと、当社はモバイル端末向けのソーシャルゲームを中心とした事業展開を進めており、ソーシャルゲームにおける既存サービスの拡充とスマートフォン向けコンテンツの強化により売上高は当初計画を順調に推移しました。また、外注費を中心としたコスト削減により当第3四半期会計期間においては黒字化を達成することができました。しかしながら、新規ゲームコンテンツのリリース遅延が影響し、新サービスによる事業収益から当該開発に係る先行投資的な費用をカバーするには至りませんでした。

以上の結果、売上高は637,394千円（前年同期比27.1%増）、営業損失64,595千円（前年同期は営業損失269,595千円）、経常損失68,427千円（前年同期は経常損失265,442千円）、四半期純損失70,145千円（前年同期は四半期純損失321,329千円）となりました。

なお、当社はモバイル事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしておりませんが、事業におけるサービス分野別の主な取り組みは、以下のとおりであります。

①ソーシャルゲームについては、グリー株式会社が展開する「GREE」で展開中のバーチャルホール「グリパチ」が、新規のパチンコ・パチスロの投入と既存サービスの拡充により、12月末の登録会員数が135万人を突破いたしました。また、スマートフォン向けネイティブゲーム展開の第1弾として、無料通話・無料メールスマートフォンアプリ「LINE（ライン）」のゲームサービス「LINE GAME」向けに、「LINE ダッシュガール」の配信を開始しました。

②スマートフォン関連については、上期にAndroid OS搭載スマートフォン向けスロットアプリ3機種の配信に引き続き、10月に「戦国乙女～剣戟に舞う白き剣聖～」、11月に「デビル メイ クライ4」をGoogle Playに配信を開始し、ユーザーからの人気を得て好調に推移しております。

③当第3四半期会計期間においては、新たな収益基盤の確保に向けてSNSゲームノウハウを生かしたBtoB（企業間取引）向け受託開発と運営業務ビジネスを開始し、新規開拓を行うとともにサービスの多様化と変化に対応できる組織体制の構築に努めております。

④フィーチャーフォン向け携帯公式サイトについては、当社オリジナルのパチンコ・パチスロ総合情報サイトである「パチンコ倶楽部」において、機種情報や攻略情報の充実化に努めるとともに、既存ユーザーの継続利用を図るためスマートフォンサイト対応キャリアへの拡充に努めております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産

資産は、前事業年度末に比べて35,576千円増加し、349,033千円となりました。

これは主に現金及び預金が7,128千円、売掛金が48,424千円増加したことで、流動資産が54,285千円の増加となりましたが、有形固定資産が4,848千円、無形固定資産が8,595千円、投資その他の資産が5,264千円減少したことによるものです。

②負債

負債は、前事業年度末に比べて19,238千円減少し、121,083千円となりました。

これは主に流動負債で買掛金が23,446千円、その他のうち未払消費税等が6,525千円増加し、短期借入金が50,000千円減少したことによるものです。

③純資産

純資産は、前事業年度末に比べて54,815千円増加し、227,950千円となりました。

これは第三者割当増資により資本金が62,484千円、資本準備金が62,476千円増加したものの、四半期純損失70,145千円を計上したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成25年5月10日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度において営業損失295,505千円、当期純損失348,515千円を計上し、当第3四半期累計期間においても営業損失64,595千円、四半期純損失70,145千円を計上している状況から、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社が事業を展開するモバイル事業においては、スマートフォン市場の成長と従来のフィーチャーフォン市場の段階的な縮小が進行しており、環境が大きく変化しております。このような環境のもと、当社は、ユーザーの市場移行による影響により携帯公式サイトへの課金対象会員数も減少傾向にあることから、これに歯止めをかけるべく事業を推進しつつ、スマートフォン向けアプリの企画開発に注力しております。しかしながら、この市場の変化により引き続き当社の業績と成長も大きく影響を受けることから、早急に対策を講じる必要があります。

当社は、当該事象又は状況を解消するために、下記の改善施策を進めております。

収益面については、フィーチャーフォンからスマートフォンへのトレンドが大きくシフトする中、事業モデルについてもスマートフォン向けコンテンツビジネスへのシフトを強化し、経営資源を集中させ、さらなるユーザー獲得の強化を図ってまいります。

コスト管理については、製造原価における社内開発の稼働率を向上して外注費を圧縮し、販売費及び一般管理費においても人件費の削減や広告宣伝費の見直しを進めることで、コストの削減を図ってまいります。

財務面については、第3四半期会計期間において黒字化を達成することができましたが、当第3四半期会計期間以降にスマートフォン向けネイティブゲーム展開を計画中であることから、引き続き開発費等も増加し手元流動性の低下が見込まれます。このため、事業活動を安定的に行う資金の確保に向け、第三者割当増資より資金調達を行いました。今後も資本政策を含めた新たな資金調達の検討及び交渉を進めてまいります。

これらの改善施策に取り組むことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は、認められないものと判断しておりますので、四半期財務諸表の注記には記載しておりません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	83,021	90,149
売掛金	100,033	148,457
商品及び製品	8,080	6,906
原材料及び貯蔵品	5,155	4,388
その他	27,535	28,210
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	223,815	278,100
固定資産		
有形固定資産	25,388	20,540
無形固定資産	25,459	16,863
投資その他の資産		
破産更生債権等	38,665	31,284
その他	38,793	33,528
貸倒引当金	△38,665	△31,284
投資その他の資産合計	38,793	33,528
固定資産合計	89,641	70,932
資産合計	313,456	349,033
負債の部		
流動負債		
買掛金	36,261	59,708
短期借入金	50,000	—
未払法人税等	1,129	2,925
その他	20,368	26,424
流動負債合計	107,759	89,058
固定負債		
退職給付引当金	10,806	10,269
役員退職慰労引当金	19,329	19,329
その他	2,427	2,427
固定負債合計	32,562	32,025
負債合計	140,322	121,083
純資産の部		
株主資本		
資本金	568,883	631,367
資本剰余金	—	62,476
利益剰余金	△378,393	△448,539
自己株式	△17,355	△17,355
株主資本合計	173,134	227,950
純資産合計	173,134	227,950
負債純資産合計	313,456	349,033

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	501,402	637,394
売上原価	443,701	442,676
売上総利益	57,700	194,717
販売費及び一般管理費	327,296	259,312
営業損失(△)	△269,595	△64,595
営業外収益		
受取利息	28	9
業務受託料	3,000	—
貸倒引当金戻入額	1,148	1,701
その他	1	159
営業外収益合計	4,177	1,870
営業外費用		
支払利息	24	380
支払手数料	—	3,337
株式交付費	—	1,984
営業外費用合計	24	5,702
経常損失(△)	△265,442	△68,427
特別利益		
投資有価証券売却益	1,344	—
特別利益合計	1,344	—
特別損失		
固定資産売却損	5,000	—
固定資産除却損	10	—
減損損失	26,177	—
早期割増退職金	2,894	—
特別損失合計	34,082	—
税引前四半期純損失(△)	△298,181	△68,427
法人税、住民税及び事業税	1,717	1,717
法人税等調整額	21,430	—
法人税等合計	23,148	1,717
四半期純損失(△)	△321,329	△70,145

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年6月28日付で、株式会社サイカン、株式会社応援団、オズミックコーポレーション株式会社、ネクストイノベーション株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、第1四半期累計期間において資本金が62,484千円、資本準備金が62,476千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が631,367千円、資本準備金が62,476千円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益計 算書計上額 (注) 2
	モバイル事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	479,395	22,006	501,402	—	501,402
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	479,395	22,006	501,402	—	501,402
セグメント損失(△)	△127,037	△19,327	△146,365	△123,230	△269,595

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△123,230千円は、主に管理部門に係る人件費及び経費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他事業であったPC用オンラインゲーム事業を、平成24年12月31日をもって終了いたしました。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「モバイル事業」セグメント及び「その他事業」セグメントにおいて、想定していた収益が見込めないため、事業用資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。当該減損損失の計上額は、「モバイル事業」セグメントにおいて19,650千円、「その他事業」セグメントにおいて6,527千円であります。

II 当第3四半期累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

当社は、フィーチャーフォン及びスマートフォン並びにパソコンのインターネットを通じてユーザーやパチンコ・パチスロホールに対し、コンテンツの提供や情報の配信を行うモバイル事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

なお、従来、「モバイル事業」と「その他事業」の2つを報告セグメントとしておりましたが、平成24年12月をもって「その他事業」を終了したため、「モバイル事業」のみとなっております。

4. 補足情報

(1) 設備投資の計画

前事業年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第3四半期累計期間に著しい変化があったものは、次のとおりであります。

モバイル事業において、既存サービスの向上と新規サービス対応のため、設備の新設を計画しておりましたサーバー（投資予定金額5,000千円）については、計画の見直しにより投資金額を1,243千円として平成26年1月の完了に変更しております。